

活動の手引き編

(活動マニュアル)

IV. 活動の手引き（活動マニュアル）

IV-1. いつまでも暮らしたい地域をめざして

1. どんな地域に暮らしていきたいですか？

みなさんの暮らしている地域はどんな地域でしょうか？

豊かな自然がある地域、買い物や交通の便利な地域、あるいは住民が少なくて困っている地域、転居者が多くお互いなじめない地域など、さまざまな特徴があり、それぞれが課題を抱えていることでしょう。

では、これからどんな地域に暮らしていきたいですか？

答えはきっと、「ここに住んでよかった」と思えるような安心感のある地域ではないでしょうか？

安全・安心ネットワークで活動する動機・理念は、「美しい心のまち・おかやま」の合い言葉に表れているように、何といても自分たちのまちを愛する気持ちが基本となっています。実際にネットワークで活動されている人たちには、岡山市が大好きで、地域のみんなで安全に安心していつまでもこのまちに住み続けたい、という気持ちが必ずあるはずです。

こうした“まちを愛する気持ち”を大切に、安全で安心な地域をつくりたいという想いがあれば十分です。

安全・安心ネットワーク活動の理念はただひとつ

まちを愛する気持ち

～ 住んでよかった、これからも住み続けたい岡山市～
～ 自分たちのまちは、自分たちで守る ～

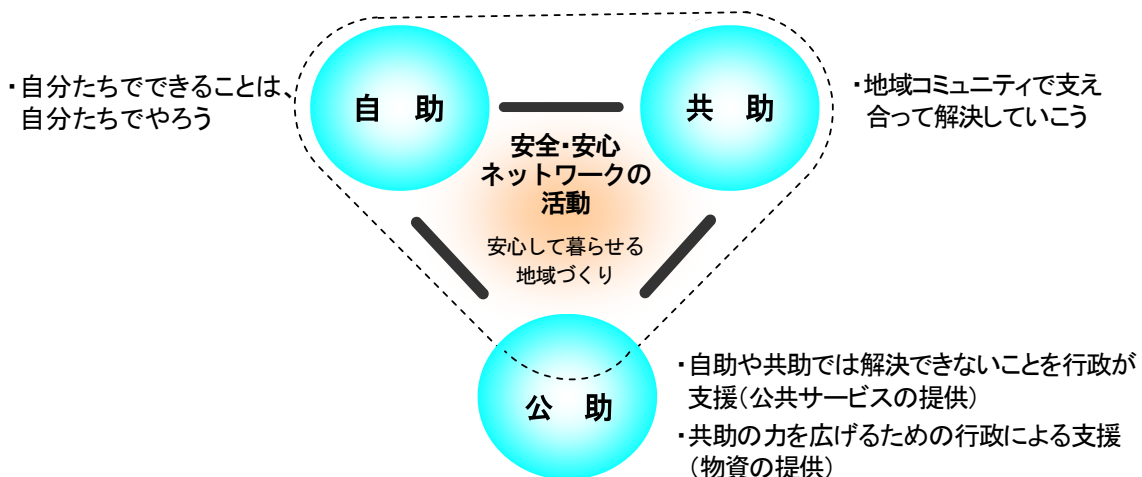
美しい心のまち・おかやま

2. 自助・共助・公助というキーワード (自分たちの暮らす地域は自分たちで守る)

「自助・共助・公助」というキーワードがあります。

「自助」とは、自分たちでできることは自分たちで行うこと。「共助」とは、自分だけではできないことを地域コミュニティで支え合って解決すること。「公助」とは、自助や共助でも解決できないことを行政からサポートを受けて解決することです。たとえば、自分の地域にごみが多ければ、「誰かが拾うだろう」「それは行政の仕事だ」と無関心でいるのではなく、まず自分がごみ拾いを行う。地域全体で一斉清掃を行う。市でごみの収集を行う。地域のことは自分たちで考え、自分たちで地域づくりを進めていく姿勢が、地域力を向上させ、住みたいまち、住んでよかったまちをつくることにつながるのです。

図表 自助・共助・公助による安全で安心な地域づくり



3. 安全・安心ネットワークって何でしょう？

安全・安心ネットワークにおいて重要なことは、地域の結びつき（コミュニティ）の強化であり、「地域を守る」という目的にむかって、地域住民が一体となって環境づくりをしていくことです。また、町内会や自主防災組織や他の活動団体が相互に連携し、ネットワーク化を図る必要があります。

地域で連携し、ネットワークを構築する際は、構成団体及び連携の必要な団体に対して目的・意義を説明して参加を呼びかけるとともに、安全・安心ネットワークにおけるそれぞれの役割分担等について十分な説明や協議をし、お互いに理解を得ることも重要です。

したがって、安全・安心ネットワークにおける連携・ネットワークづくりのポイントとしては、次のようなことがあげられます。

ポイント1：活動の背景には、地域独自の課題がある

ネットワーク活動の背景には、多くの場合、地域独自の課題があります。その課題の内容は、高齢者が多くて心配、大雨のとき裏山の崖は大丈夫か、子どもの安全が心配だ、等々さまざまです。

ただし同じような課題であっても、都市部や郊外、田園地帯など、地域性によって起こる原因が違ったり、取り組み方（活動）も変わってくる場合もあります。

だからこそネットワークの活動では、皆が地域をよくするために必要なことを話し合い、課題を解決するための活動が必要となるのです。

図表 動機と実際の活動の例

動 機		実際の活動の例
○ 子どもの安全が心配だ	→	○ 登下校時に通学路で見守り活動をしよう
○ 台風などによる河川の氾濫にどう備えたらいいだろう	→	○ 災害時を想定した防災訓練をしなくては
○ 足の不自由な高齢者が外出したい楽しめるようになったらいい	→	○ 高齢者の送迎ボランティア活動を試みよう
○ 生活習慣病が心配だけれども、一人ではなかなか身体を動かす機会がない	→	○ 手軽にできる体操教室に参加してみよう
○ はじめての子どもなので、子育てに不安がある	→	○ 気軽に話し合える仲間づくりができないかな

ポイント2：暮らしを脅かす犯罪の予防や災害への備えも活動の動機

「空き巣やひったくりなどの犯罪が増加している」、「地震や風水害への備えが心配だ」、等々、防犯・防災に関することは、活動の大きな動機のひとつです。まさに安全・安心や危機意識の共有という意味では、防犯と防災の活動は共通点も多いため、両方の活動に関わる方々が連携して取り組まれている事例も多く見られます。

ポイント3：楽しみ、生きがい、居場所づくりも重要なポイント

「安全・安心」の活動は、防犯や防災だけに限られるわけではありません。活動そのものが楽しみ、生きがいとなっている場合もあります。例えば、健康を目的としたウォーキングでも、世代をこえた仲間とのふれあいや、終わったあとの慰労会や打ち上げを楽しみに参加している人も多数いると思われます。

また、地域福祉では、各地域の人たちが高齢者や障がい者への理解を深め、身近な地域の中で居場所づくりをしていくことが求められています。

義務や押しつけでは、仲間づくりや活動の維持継続は難しいでしょう。ネットワーク活動では、「楽しみ」という要素も重要なポイントです。

ポイント4：めざすところは「顔のみえる関係づくり」

地域が抱えるさまざまな問題は、地域コミュニティの崩壊が原因と言われていきます。人々の価値観や生活環境が多様化するなかにあって、かつての「向こう三軒両隣」のような関係を少しでも取りもどすことができればよいと考えています。そこで、安全・安心ネットワークの活動がめざす大きな目的は、地域のなかでお互い「顔のみえる関係」を築いていくという、地域コミュニティの再生にあります。

ポイント5：コーディネーター（活動の調整役）の存在

地域で信頼され、課題解決に熱心で団体間の意見や安全・安心ネットワークの活動を調整できるコーディネーター（活動の調整役）の存在も重要です。

地域には、こうした意欲のある方が必ずいるはずです。そして「熱心な人が3人いれば活動組織ができる」といわれます。さまざまな立場の人たちの協働により安全・安心ネットワークはその機能が高まります。

ポイント6：ネットワーク活動の内容

みなさんがふだん地域で活動されていることが、そのままネットワークの活動となります。町内会で清掃活動をすれば、環境美化活動となるでしょう。また老人会が児童の登下校時の見守りをすれば、地域防犯活動です。つまり、地域で日常的に行っている活動＝ネットワークの活動なのです。

ポイント7：複数の団体が連携した活動をする

複数の団体が活動の目的や内容をお互いに理解することが、連携の第一歩です。そのなかで協力しあえる共通項を見つけていくことが大切です。こうした地域の“横のつながり”を大切にし、人的・物的な連携を図ることができれば、より活動の充実を図ることができます。

岡山市には、「安全・安心ネットワーク」という受け皿がすでにできあがっています。この受け皿を活用して、一度地域で活動している皆さんと会合を持ってみてはいかがでしょうか。「こんな近くに、こんな活動をする人がいたんだ！」という新たな出会いや発見があるはずです。いうならば、地域活動の「縦割り」を打破するきっかけづくりと捉えることもできます。

IV-2. 組織の運営や活動への取り組みかた

1. ゆるやかな連携によるネットワークづくり

○ **ポイント:**

・地域のさまざまな団体の“横のつながり”をつくっていきましょう。

地域では、町内会などの地縁組織や、行政から委嘱を受けた民生委員・児童委員、ボランティア団体、障がいのある人や子育て家庭にみられる自助グループ、NPOなどがあり、それぞれ固有の目的を持って活動しています。

こうしたなかで、地域のなかには同じような問題を抱えていたり、活動したくても人材不足で活動が困難だったり、地域の課題について話し合う機会が少ない団体もあるかもしれません。

そこで、地域のさまざまな団体が活動目的や必要に応じて“横のつながり”を形成することによって、人的・物的な結びつきを強め、地域での課題解決に対応する新たな関係＝連携がキーワードとなってきます。

岡山市での“ゆるやかな連携”

それぞれの団体がふだん行っている活動（得意分野）と地域の諸課題とを結びつけ、必要に応じて、相互の得意分野から地域で支え合う力を補完し合う（人やもの、情報を共有し合う）こと。

現在、安全・安心ネットワークを立ち上げ、活動を進めていくときは、連合町内会（町内会）、婦人会、民生委員、学校、PTA、交通安全対策協議会、老人クラブ、消防団、愛育委員、社会福祉協議会、NPOやボランティア団体等、できるだけ幅広い団体が参画することを視野に入れていますが、特にこの団体が入っていないという定義はありません。

できるところから、ゆるやかな連携を構築することが望まれます。

2. 安全・安心ネットワークでの組織の運営とは？

(1) 情報交換が身近にできる、活動拠点の設定

○ ポイント：

- ・活動拠点を設定し、活用しましょう。
- ・団体間の活動情報を交換し、情報を共有しましょう。

安全・安心ネットワークは、地域のさまざまな活動団体で構成される連合組織ですから、連携した活動を実施するためには、お互いのことをよく知り、情報を共有し合うことがまず第一歩です。

そのためには、定期的に、あるいは必要に応じて情報交換や活動の相談のために集まれる環境、活動拠点が必要です。

活動拠点は、事務局的な機能や、使用する資機材の保管といった機能も重要ですが、最大のポイントはいつでも集える「身近さ」です。活動拠点に集って、いつでも情報の共有ができる環境があれば、新たな活動のアイデアやさまざまな気づきが生まれるでしょう。

ネットワーク全体の活性化のためは、活動拠点を活かし、情報交換の機会をつくっていきましょう。

コラム：団体間で連携するための第一歩、まずは「地域の団体を知る」こと

岡山市内には、たくさんの組織や団体が活動しています。

市内全域を対象に活動している組織や団体もあるでしょうし、身近な学区・地区のみで活動する団体、さらには近隣の学区・地区も含めて活動している団体もあるかもしれません。

皆さんのお住いの地域にはどんな団体がありますか？

まずは、地域で活動している団体を書き出してみましょう。団体間の連携づくりをしていくためには、まず地域にどのような組織や団体があるかを知ることが大切です。そして地域内の各団体について、代表の方や役員の方に、構成員・活動内容などを聞いて整理し、協力を呼びかけていきましょう。

(2) 活動計画づくり

○ ポイント:

- ・さまざまな団体の活動スケジュールを調整し、地域活動の年間活動計画を作成しましょう。

複数の団体が連携して行う、ネットワークでの活動がすすむと、それぞれの団体の行事や活動が重なっていて、お互いに参加ができないといった状況もあらわれるかもしれません。

こうした状況にならないよう、ネットワーク活動が軌道に乗ってきたら、団体間の活動スケジュールや活動期間を整理し、ネットワークとしての年間活動計画をつくってみましょう。

(3) 活動の成果をきちんと評価しよう

○ ポイント:

- ・反省点ばかりではなく、よくできたことを成果として認め合うことで、活動の励みにつながります。
- ・活動の記録をしっかりと残し、電子町内会などで発表しましょう。

安全・安心ネットワークでの活動の成果（結果）は、活動ごとにきちんと評価しましょう。

ただし評価といっても、反省点ばかりではありません。よくやれている活動や、活動によってできたことを安全・安心ネットワークのなかで、お互いに確認しあっていくことは大切な評価です。

活動のなかには、成果（結果）が目に見えにくい場合もあるかもしれませんが、実施した活動には必ず成果（結果）があるものです。

また、こうした活動の成果（結果）の確認は、活動の励みにもなり、今後の活動にも大いに役立つものです。

特に、発表する機会などで、認められたり、成果が目に見えるかたちで表れてくると、活動はさらに広がっていきます。ですから、活動の内容は、写真等、目に見えるかたちでをしっかりと残しましょう。電子町内会など利用して、成果を発信してみるのもよいと思います。

IV-3. ネットワークでの具体的な活動

1. 地域で活動を進める5つの分野とは

安全・安心ネットワークでの活動は、「防犯」「防災」「環境美化」「地域福祉」「健康づくり」の5つの分野です。それぞれの分野に応じた専門的な活動だけでなく、複合的な原因に基づく課題の解決に向けては、分野を越えた連携が必要です。

こうしたことから、下図に表すように、まず各々の活動の経験から「①地域の課題」を指摘し、どのようなことが「②原因」となっているのかを、ネットワークで話し合ひましょう。そうした原因を解決する活動や抑止する活動が、「③解決のための地域活動」となっていきます。

地域課題と原因の抽出、解決のための地域活動（例）

① 地域の課題	② 原因	③ 解決のための地域活動
広い学区の見回り	○駐在所2名でカバーしている。 ○地域住民の意識。	○青色回転灯装備車での防犯パトロール ○地域を見回りながら、支援の必要な家庭の見守り活動
交通道德のなさ 高齢者の交通事故	○主要道が高速道路の横にあった。 ○信号待ちが嫌で細い道を通りぬける。	○交通安全教室の開催(幅広い世代を集めた交流機会を兼ねる) ○高齢者への交通安全指導 ○高齢者が元気で暮らせる健康づくり
川・山・広い地域	○一級河川の短期間での増水。 ○山が荒れ、土砂崩れが起きる。	○自主防災組織の育成 ○行事等を活かして、地域で“顔の見える”関係づくり ○災害時要援護者対策 (安否確認・避難支援・日常の見守り活動)
共働き・核家族化	○若い母親、父親に子育ての知識が不足している。	○子育て家庭の居場所づくり ○世代間交流の機会を通じて子育て知識を伝授
山・河の不法投棄	○山、河が多くあるし、人の目が行き届かない場所が多くある。	○不法投棄パトロール ○人の目が行き届かない場所(危険箇所)のパトロール

(1) 地域課題の見つけ方

○ ポイント:

- ・団体間の活動情報交換を活かして、地域の課題を見つけ出しましょう。
- ・実際に地域を歩き回って、課題を発見しましょう。
- ・統計などの情報から、地域にどのような人が暮らしているかを知る方法もあります。

地域課題に気づく（発見する）には、どのような方法があるのでしょうか？

地域活動のきっかけは、多くの場合、地域の状況等に基づく「地域の課題」に気づくことから始まります。

地域課題を見つけるために、まずは地域の活動団体を調べ、活動している団体から話を聞いたり、安全・安心ネットワークを構成する団体間で情報を交換したりしながら、地域にどのような課題があるのかを把握することが、最も簡単な方法といえます。

しかしながら、学区・地区によっては、急速な都市化あるいは人口減少といったこれまでとは地域の状況も変わりつつあり、新たな課題が発生しうる地域もあるかもしれません。

そういった場合には、実際に地域を歩いて回り、地域の方に困りごとを聞いてみるなどしながら、危険箇所や以前と変わってきた場所、課題を見つける調査を試みましょう。

その際、世代によって見える課題が違うこともあるため、さまざまな世代が参加する「まち歩き」のイベントとして行くと、団体間だけでなく、地域の方から直接意見をもらうこともできます。

また、統計的な資料から、地域課題を見つけることもできます。

例えば、人口や世帯数、子どもの人口や高齢者人口、そのほかにも、要介護認定者数、障害者手帳交付者数などがわかると、災害時や緊急時等、地域で支援の必要な人がどのくらいいるのかがわかり、課題と同時に、地域で取り組むべき活動を検討することができます。

コラム：地域の“ひととなり”を知ろう

人も地域も歴史があり、特徴があります。「この地域はどのような地域だろう」という関心から地域を知る、地域のことを調べるといった取り組みは、安全・安心ネットワーク活動の掲げる「地域を愛する気持ち」や「これからも地域で暮らしたい」といった愛着の気持ちにもつながります。

分野の課題の解決に向けて活動に取り組むことも大事ですが、時には地域の“ひととなり”を知るために、地域の行事をみんなで楽しんだり、地域のことを調べてみたりしてみてもいいのではないでしょうか。

(参考) 地区カルテ作ってみよう

地区カルテとは、地域の特徴や現状を知り、地域課題やそのために必要な活動を検討するための“診断書”のようなものです。

「今後どんな活動をすればよいかわからない」などの迷いや悩みがでてきたら、一度地区カルテを作成し、地域の現状をまとめてみましょう。作成するなかで、気づいていなかった地域の課題や良いところなど、新たな発見もあるはずです。

地区カルテ (例)

地区名：		〇〇学区・地区					
人口	総人口	7,850人	—				
	幼児期(0~4歳)	267人	3.4%				
	学童期(5~14歳)	566人	7.2%				
	青年期(15~24歳)	826人	10.5%				
	壮年期(25~44歳)	1,920人	24.5%				
	中年期(45~64歳)	2,275人	29.0%				
	高年期(65歳以上)	1,996人	25.4%				
	前期高齢者(65~74歳)	1,003人	12.8%				
	後期高齢者(75歳以上)	993人	12.6%				
	出典・データ時点		住民基本台帳 H19.3.31				
世帯・高齢者	総世帯数	5,092世帯	—				
	特に支援が必要な高齢者世帯数	306世帯	6.0%				
	一人暮らし高齢者数	293人	14.7%				
	一人暮らし高齢者世帯数	9世帯	0.2%				
	寝たきり高齢者数	39人	2.0%				
	寝たきり高齢者世帯数	17世帯	0.3%				
	高齢者のみの世帯数	280世帯	5.5%				
出典・データ時点							
暮らしの環境 安全・安心 利便性							
	<p>地域の特徴</p> <p>山あり川あり畑あり、自然豊かな学区だと思います。生活するにはきびしい面もありますが、地域行事・イベントもたくさんあり、歴史・文化も豊かな地域です。 このことからとても楽しい地域であるといえます。</p>						
地域の課題		原因					
不審者の情報が多い 少年の夜間の出歩き		○警察と連絡を密にしているが、犯人がつかまらない ○夜遅くなっても若者が集まる場所がある					
災害時の高齢者対策		○ひとり暮らし高齢者の増加 ○地盤が低く水害が発生しやすい					
地域でのコミュニケーションが少ない		○住民の少子高齢化・核家族化					
ごみ出しの時間が守れない まちが汚い		○住民の高齢化 ○住民のモラルの低下					
健康への不安		○住民の高齢化					
解決のための地域活動		<p>→ 夜間などの防犯パトロールを実施する。</p> <p>→ 見守り・声かけ活動で災害時要援護者世帯を把握要援護者台帳を作成する。</p> <p>→ 行事やイベントを利用して、住民が集まる機会を増やす。</p> <p>→ 支援の必要な世帯のごみ出しを手伝う。 花を植えたり、地域の環境づくりを行う。</p> <p>→ 地域の医師に健康づくりの指導をしてもらう。 保健センターに相談し、介護予防教室を開催する。</p>					
ネットワーク組織	自治会・町内会	○	環境活動団体		社会福祉協議会	○	(その他の団体)
	コミュニティ協議会	○	健康活動、スポーツクラブ		医療機関	○	
	交通安全関係団体	○	民生委員・児童委員	○	警察署		
	防犯ボランティア	○	婦人会等	○	消防署	○	
	高齢者福祉団体	○	小・中学校	○	PTA	○	
	子育てサークル	○	保育園・幼稚園	○	その他の団体	○	
	障害者団体	○	消防団	○			
構成団体数		25 団体					
活動分野	高齢者支援	○	消防・防災・災害支援	○	趣味、文化活動、スポーツ等	○	(その他の活動内容)
	障害者支援	○	防犯	○	青少年健全育成・支援	○	
	子育て支援	○	交通安全	○	まちづくり	○	
	健康づくり	○	清掃・環境美化	○	その他		

2. 分野を越えた地域活動の考え方

○ ポイント:

- ・悩みごとの原因が一致していたり、活動の目的が共有できれば分野を越えた活動につながります。
- ・団体間で共同してできる活動はないか考えてみましょう。
- ・ふだんの活動にひとつ加える“ついで活動”や“ながら活動”も有効です。

「防犯」「防災」「環境美化」「地域福祉」「健康づくり」と、分野は異なっていますが、例えば、高齢者への対応という課題（目的）は各分野に共通しており、取り組まれる活動として、

- 防 犯 = 悪質な訪問販売への呼びかけ
- 防 災 = 災害時、高齢者の避難誘導
- 環 境 美 化 = 身体の不自由なために決められた日にごみ出しができない
高齢者宅のごみ出し代行
- 地 域 福 祉 = 配食サービス、見守り活動
- 健康づくり = 転倒予防・介護予防

といったように、各分野で“高齢者への支援”として取り組む活動は多数あります。

警察、消防、保健福祉等、行政側で窓口となる部署が異なるため、これまでは地域活動もそれに合わせて活動が実施されているケースも多くみられましたが、例えば上記のように「高齢者」をテーマに活動目的を共有すれば、共同活動に発展させることもできるでしょう。

また、犬の散歩をしながら地域を防犯パトロールしたり、健康づくりのウォーキングのついでに、パトロールや清掃活動をしたりといった、いわゆる“ながら活動”、“ついで活動”も、分野を越えた地域活動に取り組むきっかけとなります。